

削る ～咬合の実践的理解と多岐多様な症例への対応～

咬合の勉強には机上の「理論的背景の全体像」と、実践の「臨床に活かせる具体的手法」を両者熟知している必要があることは言うまでもありません。

私達歯科技工士は、咬合に関わる小さなAやBあるいはCといった一つ一つの問題に取り組みながら、それらを ①模型から口腔内への適合、②模型と口腔内の違い、③顎運動と歯の形態、④顎運動を表現する咬合器、⑤千差万別な症例への対応、⑥異常機能運動の理解、などに分類しキューブゲームの攻略のように1面、次いで2面、3面と順序立てて整理・解決するのが良いと考えています。また経験を要する5面、6面といった難題にはせっかく作った前段階のカラーピースを再度崩しつつも全体の構成を見渡しながらか、結果的に同時に仕上げる第三の目も必要になることでしょう。今回はそれら全体への理解の上に、多岐多様にわたる各々の症例にどう視点を向けたら良いかを中心にお話したいと思います。

山口 周行 (やまぐち しゅうこう)

【略 歴】

1965年	熊本県生まれ
1985年	東京医科歯科大学歯学部附属歯科技工士学校 本科 卒業
1987年	同校 実習科 修了
1987年	東京都西東京市 押見歯科診療室勤務
1993年	有)シュウデンタルラボ 設立 [2010年より 有)SDL に改名]
1993年～	日本歯科技工士会 生涯研修認定講師
1994年～2012年	東京医科歯科大学歯学部附属歯科技工士学校 非常勤講師

【主な論文、書籍】

- ・甲田和行, 山口周行 咬合印象による補綴物製作法について QDT vol.17/1992 178-84
- ・甲田和行, 山口周行 症例からみた咬合器の選び方・使い方 片側臼歯部補綴症例にふさわしい咬合器の選択条件と使用例 歯科技工別冊 1995.124-133
- ・高野真, 山口周行 寒天アルギン酸連合印象を再考する 補綴臨床 vol.30 No.3 1997.5:289-296
- ・山口周行 長期機能維持を目標にした補綴物の製作～パイリング法による歯冠形態の回復～ 歯科技工臨床研修講座 第2巻 日本歯科技工士会 編 医歯薬出版 1997
- ・寺西邦彦, 山口周行, 山口芳正 編 目で見えるクラウン・ブリッジ ～トータルにとらえる歯のかたち～ 歯科技工別冊 2001
- ・三善由高, 山本尚吾, 山口周行, 宮崎隆 編 失敗しないメタルセラミックス QDT 別冊 2003
- ・「練る」印象と模型その周辺を考える 山口周行, 玉置博規, 株式会社GC 医歯薬出版 2011
- ・山影俊一 「補綴力」を高める 今日から活かせるインテリジェンスとテクニック 山口周行/執筆協力 クインテッセンス出版 2012
- ・「削る」咬合を順序だてて理解する 山口周行, 玉置博規, 株式会社GC 医歯薬出版 2013